

## 「鉄道地震工学研究センター 第4回 Annual Meeting」を開催しました

平成30年2月14日  
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、「鉄道地震工学研究センター 第4回 Annual Meeting」を下記により開催いたしましたのでお知らせします。

鉄道総研は、鉄道地震工学研究センターの役割や活動をご紹介させていただくとともに、参加者の皆様と幅広く意見交換させて頂く場として、Annual Meeting（アニュアル・ミーティング）を下記の通り開催し、鉄道事業者をはじめ官公庁、大学、一般企業から150名以上の方々にご参加頂きました。

鉄道の地震に対するレジリエンスを向上させるためには、インフラの耐震化や早期警報の拡充などの対策の他に、近年広く普及しているネットワーク技術を基盤とした「情報」を有効に活用することも重要です。そこで、第4回目のAnnual Meetingでは、鉄道のレジリエンスを高めるためには、どのような情報がどのようなタイミングで必要となるのか、情報をより実務的に活用するにあたっての課題や方向性に関する討議を行いました。

招待講演では、「電力分野におけるリアルタイム地震情報の活用」と題して、電力中央研究所の朱牟田善治様にご講演を頂きました。その後、鉄道地震工学研究センターからは、レジリエンスを向上させるための地震情報の具体的な活用例として、鉄道総研が開発に取り組んでいる鉄道用地震情報公開システム等について4件を紹介しました。また、会場では、来場者の皆様に鉄道用地震情報公開システムについて実際の操作を体験して頂きました。

パネルディスカッションでは、地震情報の活用における課題と今後の方向性について、鉄道分野のみならず道路や電力分野の専門家の方々をパネラーに迎えて討議を行いました。そこでは、（1）地震観測などの情報は「点」の情報であり、シミュレータ等を活用することで「面」の情報に変換し付加価値を高めることが重要であること、（2）各機関で有する情報を共有する仕組みが必要であること、（3）仮に上記のような情報が入手できたとしても、その情報をどのように運用するのか事前に整備しておくことなど、地震情報の活用方法などについて、聴講者の皆さまも交えた活発な討議が行われました。

### 記

1. 開催日時：平成30年1月29日（月） 13時30分から17時40分

2. 開催場所：日本工業倶楽部 大会堂（東京都千代田区丸の内）

### 3. プログラム

#### ■開催挨拶

鉄道総研 専務理事

高井 秀之

#### ■招待講演

「電力分野におけるリアルタイム地震情報の活用」

（一財）電力中央研究所 地球工学研究所 上席研究員

朱牟田 善治 様

#### ■講演

「レジリエンスを向上させるための地震情報の活用」

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター長

室野 剛隆

「鉄道地震災害シミュレータの開発と今後の展開」

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター

地震動力学

副主任研究員

坂井 公俊

## 「海底地震計を活用した早期警報」

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター 地震解析 副主任研究員 是永 将宏

## 「津波応答性と津波浸水マップを利用した早期津波警報」

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター 地震解析 副主任研究員 津野 靖士

## 「鉄道用地震情報公開システムの改訂と今後の展開」

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター 地震応答制御 主任研究員 川西 智浩

### ■パネルディスカッション

#### 「地震情報の活用における課題と今後の方向性」

東日本旅客鉄道株式会社 設備部 鉄道防災グループ 課長 大澤 裕之 様

西日本旅客鉄道株式会社 鉄道本部 安全推進部 課長 鹿野 篤志 様

東京地下鉄株式会社 鉄道本部 工務部 土木課長 伊藤 聡 様

国土交通省 国土技術政策総合研究所 道路地震防災研究室長 片岡 正次郎 様

(一財)電力中央研究所 地球工学研究所 上席研究員 朱牟田 善治 様

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター 地震解析研究室長 山本 俊六

#### モデレーター:

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター 地震応答制御研究室長 山田 聖治

### ■閉会挨拶

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター長 室野 剛隆



高井専務による開会挨拶



招待講演の様子



講演の様子



パネルディスカッションの様子



パネルディスカッションの様子